

# 深い学びの実現に向けた次期学習指導要領における各教科等の「統合的な理解」「総合的な発揮」の例

「統合的な理解」と「総合的な発揮」を記述することにより、資質・能力の理解やその育成のための教師の単元構成や授業づくりを助け、「深い学び」を授業で具現化しやすくする

## 「思・判・表」の深まりを「知・技」が全体として支える教科等

※「思・判・表」の系統性が比較的明確で、表形式では「並行パターン」で示す

### 国語 中

言葉の様々な意味や働き、使い方に関する知識や技能を使えば、理解や思考、表現の質が高まることを理解している

相手や状況、目的に応じて、文章の書き方を工夫して、考えや思いをよりよく伝えることができる

・文脈に即した語句の選び方  
・語や文章の機能に応じた構成や展開  
・情報の整理の仕方、信頼性の確かめ方 など

・相手や目的に応じて重要な情報を見極めて関係を整理し、構成や表現の仕方を工夫して伝える文章を書く  
・経験や思い、想像した世界を、目的に応じて、構成、描写などを工夫して描き出す文章を書く など

※「書くこと」の領域におけるイメージ

### 外国語 中

英語で書いて表現する際に、様々な語彙や表現、文構造、文法の知識を、コミュニケーションの中で使うことにより、表現の質が高まることを理解している

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、様々な話題について、情報や自分の考え、気持ちなどを整理し、表現等を工夫して書く

・個々の語彙や表現、文構造、文法の理解  
・英語の特徴やきまりに関する知識を、英語で書く際に、文章の中で活用

・日常的な話題について、簡単な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを書く  
・身近な社会的な話題について、簡単な語句や文を用いて、考えた・感じたことやその理由を書く

※「書くこと」の領域におけるイメージ

### 音楽 中

声の音色や響きの特徴を実感を伴って捉えながら、身体の使い方を調節することで、思いや意図を歌唱で表現できることを理解している

知覚・感受したことをよりどころに表現に対する思いや意図をもち、自分や他者にとって歌唱による表現がもつ意味や価値を実感しながら、歌唱表現を深めることができる

・音楽を形づけている要素とその働き  
・声の音色や響き及び言葉の特性とそれを生かした歌い方

・音楽を形づけている要素とそれらの働きとの関わりについて考える  
・曲想と音楽の構造などに関わりについて考え、曲の特徴を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌う

※「A 表現」領域 区分「歌唱」におけるイメージ

### 図画工作 小

自分の感覚や行為を通して造形的な特徴を捉えながら、場面に応じて活用できる技能を身に付けることで、創造的に表現できることを理解している

形や色などを基に自分のイメージをもちながら豊かに発想や構想をし、表す過程での気づきを生かして表現することができる

・形や色などの造形的な特徴を理解すること  
・絵や立体、工作に表す活動を通して、表現方法を知り、材料や用具の特徴を生かして使うこと

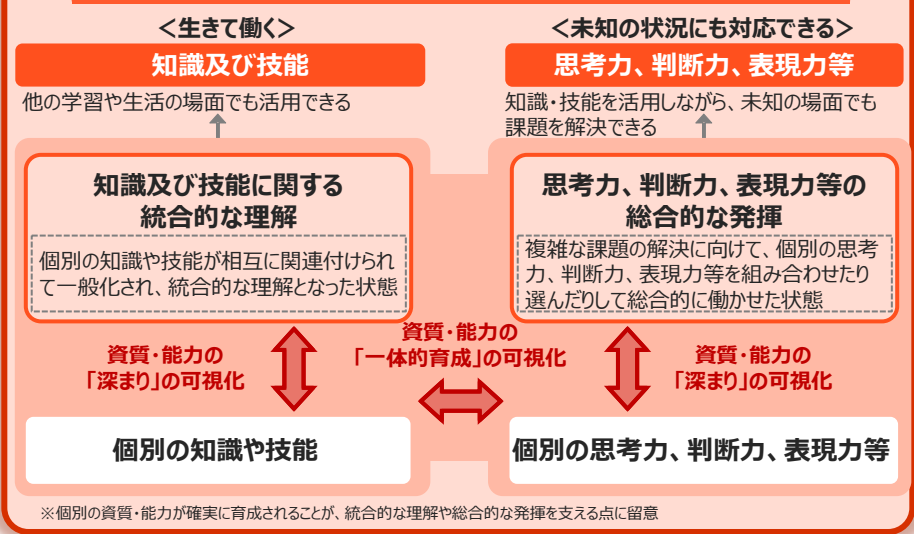
・形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつ  
・絵や立体、工作に表す活動を通して、想像したことなどから表したいことを見付け、どのように表すか考え、表し方を工夫して表現する

※「A 表現」領域 区分「自分と表したいこと（仮）」におけるイメージ

※各教科等の特定の内容のまとまりに対応する「統合的な理解」「総合的な発揮」を例示的に示したもの  
※各教科等におけるイメージに記載の内容は検討中であることに留意。「統合的な理解」「総合的な発揮」や個々の知・技、思・判・表の記載は内容を抜粋・簡略化して記載しているものがある。

「統合的な理解」「総合的な発揮」を活用した  
単元構想プロセスにつなげる  
(次頁の活用イメージを参照)

## 「深い学び」の具現化に関する共通的なイメージ



## 「知・技」の内容のまとまりに対応した「思・判・表」が明確な教科等

※「知・技」の系統性が比較的明確で、表形式では「並列パターン」で示す

### 社会（歴史的分野） 中

欧米諸国の動向や近隣の諸地域との関係を背景に、社会や対外的な状況の変化への対応が求められ、日本の近代国家のしくみや近代的な社会や文化が形成されたことを理解する

時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、原因、結果、現在とのつながりなどの視点に着目して、近代の日本について多面的・多角的に考察し、時代の特色を大観して表現することができる

・欧米における近代社会の成立とアジア諸国の動き  
・明治維新と近代国家の形成  
・議会議政治の始まりと国際社会との関わり

・工業化の進展と政治や社会の変化  
・明治政府の諸改革の目的  
・議会議政治や外交の展開  
などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、多面的・多角的に考察し、表現する

※「C 近現代の日本と世界（1）近代（前半）の日本と世界」の領域におけるイメージ

### 理科（物理分野） 中

力は物体の運動状態を変化させることを理解する

科学的に探究する学習活動を通して、物理現象の特徴を見いだして表現することができる

・力の働き  
・力のつり合いと合成・分解  
・運動の規則性

・観察、実験や資料に基づいて分析・解釈する活動などを通して、作用と変化についての特徴を見いだして表現する

※「作用と変化」の領域におけるイメージ

### 算数 小

単位量あたりの大きさや割合、比は、二つの数量の関係を数で表したものであり、その数を用いて、二つの数量の関係どうしを比べられることを理解する

事象における二つの数量の關係に着目し、比べ方を考察して、判断に生かす

・割合を用いた二つの数量の關係どうしの比べ方  
・単位量あたりの大きさの意味や表し方  
・割合を用いた比べ方や、百分率を用いた表し方  
・数量の關係を比べて表したり、等しい比をつつたりする

・二つの量の割合として捉えられる数量の關係に着目して大きさを比べたり表現したりする方法を考察し、日常生活に生かす  
・二つの数量の關係に着目し、二つの数量の關係どうしを比べる問題を設定して、比べ方を考察する

※「変化と関係 割合と比」の領域におけるイメージ

## 左記以外の教科等

### 生活 小

※表形式では独自パターンで示す

学校、家庭及び地域との関わりの中で、自分の生活が支えられていることへの気づきを深め、それらに親しみや愛着をもって行動できる

※「学校、家庭及び地域の生活に関する内容」の階層におけるイメージ

特別活動 中

学級での話し合いを生かして自己の課題を解決したり将来の生き方を描いたりするために意思決定して実践することを通して、以下の資質・能力を育む

- 社会との関わりでの自己の生活上の課題や興味・関心に目を向け、主体的に行動し現在及び将来の自己の生き方につなげようとする
- 他者の視点を通じて、自己の価値観や思考を広げようとする
- 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する

※「学級活動（2）日常生活における自己の成長と健康安全、（3）将来に向けた自己の成長とキャリア形成」の領域におけるイメージ

特別支援教育  
知的障害 小学部 生活科

よりよい毎日の生活を送る上で必要となることを考えて行動する中で、衛生的で安全な規則正しい生活習慣を確立する力を身に付けることにより、健康で自立した生活を送ることができる

※「学校・家庭での基本的な生活習慣（仮）」の領域におけるイメージ

知的障害 中学部・高等部 職業科

働くことの意義や働くために必要な技能についての理解を深め、自己実現を図ったり社会の一員としての役割を果たしたりするために必要な力を身に付けることにより、将来のよりよい職業生活につなげていけることを理解する

よりよい職業生活を送るために、実際の場面において必要となる事柄を考えるとともに、自分の長所や課題との関係から、工夫したり改善したりすることができる

※「A 職業生活」の領域におけるイメージ

### 体育（運動領域） 小

ゲームの特性等に応じて、ボールの操作や動きを理解し判断することで、ゲームの楽しさや喜びを最大限味わうことができる

ゲームの特性等に応じて、運動の楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、動き・ルール・作戦等を工夫できる

・ボールを用いた様々なゲームのルール、場や用具の使い方  
・ボール操作とボールを持たないときの動きの習得

・ゲームや仲間の状況に応じて、動きやボール操作を選択する  
・皆で楽しめるルールを考える  
・個人やチームの作戦を工夫する

※「ボール運動系、球技」の領域におけるイメージ

### 家庭 中

地域の食文化を大切にし、健康で安全な食事を続けていくことが、自分の生活をよりよくなることにつながることを理解する

自分の食生活上の課題を見だし、自立に向けて健康・安全で食文化を大切にしたいよりよい生活を工夫し、創造することができる

・栄養素の種類と働き、食品の栄養的特質  
・食品の選択や保存、献立作成の方法、調理の仕方  
・地域の食文化と和食の調理

・健康によい食習慣について考え、工夫する  
・中学生の1日分の献立について考え、工夫する  
・日常の1食分の調理について、食品の選択や調理の仕方、調理計画を考え、工夫する

※「C 食生活（仮称）」の領域におけるイメージ

### 情報・技術 中

情報技術により情報やデータから新たな関係を見いだしたり、情報を批判的に吟味・設計することが、分かりやすい表現につながることを理解する

情報技術の正負の側面に配慮しつつ、情報やデータを分析して判断したり、分かりやすい情報を批判的に吟味・設計・表現し、評価・改善したりできる

・情報やデータの統計的な分析やそれを用いた課題発見  
・ユーザー視点の情報デザイン、コンテンツ設計  
・メディア特性が人の認知に与える影響

・情報やデータ等の関係を多角的に見だし、整理・分析する  
・試作や検証等を通じて、情報処理の手順を設計し、図表等に表現する

※「（1）情報の表現とデジタル化（仮称）」の領域におけるイメージ